

情報クリップ

農業情報ピックアップ

2/13 国産米の価格競争力喪失 関税半減案に生産者懸念

WTOのハービンソン農業交渉議長の提示案を受けて、全中は、同案に基づくコメの価格への影響を試算した。関税が半減された場合、米国産は1kg当たり300円弱（現行450円程度）、中国産も280円強（440円程度）に値下がりし、国産米は価格競争力を失う。外食産業や消費者にとって値下がり歓迎だが、国内の稲作農家は懸念を強めている。国内農家がコメを作る費用は、耕地面積5ha以上の農家で1kg当たり216円、全国平均では298円。流通経費を加えると、合計で260〜360円程度となり、外国産米価格と同水準になる計算。（共同）

国際関係

2/12 25〜45%関税引き下げを

WTOの農業自由化交渉で、ハービンソン議長は3月末を期限とする大枠合意の第1次草案を加盟国・地域に提示した。焦点の農産物の輸入関税では、現行の関税率に応じて5年間に最低でも25〜45%引き下げよう求めた。

日本のコメ輸入は現行関税率が400〜500%に相当するため、45%の大幅引き下げが適用される恐れがある。しかし第1次草案は、日本がコメ輸入で実施している制度をめぐりあいまいさも残しており、大枠合意期限に向け米国など農産物輸出国と日本の間で激しい交渉が展開されることになりそうだ。（共同）

2/13 WTOで日本の立場主張 首相、農業効率化も促す

小泉純一郎首相は、WTO農業自由化交渉の議長案提示を受け「日本の立場が理解されるように努力すべきだ」と述べ、コメ関税の大幅な引き下げなどに反対していく方針を強調した。

首相は、日本農業の競争力強化を進めていく考えも国会答弁など

関税半減案に生産者懸念

で繰り返し表明。国際的には可能な限り保護の維持を訴えながら、国内では「外圧」もてこに農業の効率化を促す姿勢だ。（共同）

構造改革

2/8 野菜生産も構造改革を、遅れば自給率は低下

農水省は、キャベツやダイコンなど主要な14品目の野菜の中期需給見直し案を発表した。中期見直しによると、07年度の需要量は、現在の消費動向が続けば、わずかながら人口も増えることから、01年度比10万4000t増の115万3千700tになると見ている。

一方、国内産の供給量は、野菜産地の構造改革が進めば、需要の増加に応じて、60万9000t増の1206万5000tに増えるが、構造改革が遅れば輸入野菜に押され、32万4000t減の113万2000tに落ち込むと見ている。（読売）

2/19 食糧法改正案の骨子判明

政府・与党は、国によるコメの生産調整（減反）を08年度に廃止し、農業者の自主調整とするための食糧法改正案の骨子を固めた。生産調整の方針は全中などの生産

者団体が策定し、国が認定する制度を創設することを明記している。

70年に始まった国の減反政策は廃止されるが、生産量の増大で米価の大幅下落を懸念する全中の主張に配慮し、事実上、国の関与を残す形になる。（毎日）

2/20 農地取得 特区内外下限積要件を10a以上に

農水省は、構造改革特区構想で緩和を認める農地取得の下限面積要件（都府県50a、北海道2ha）について、特区内外の新たな下限面積を10a以上とし、地域の実情に応じて設定できる制度とすることを明らかにした。

対象区域は、担い手不足や農地の遊休化が深刻な地域に限定するとともに、大規模農家や集落単位の営農に支障が生じないよう設定するとの条件をつける。（毎日）

食品・偽装表示

2/7 農水省に改善対策報告

福岡県のブランド茶「八女茶」の産地表示を偽っていた全農は、JAS法に基づいて指示を受けたいた業務改善対策などを農水省に報告した。

報告書は、偽装が行われた福岡県本部の製造、販売実態を全国本部が把握する仕組みがなく、チェック機能が働かなかつた管理責任に言及。業務マニュアルを見直し、法令順守を徹底するとしている。（共同）

2/19 牛肉の表示、9割が注目

農水省は、食肉に関する消費者

意識調査を発表した。それによると、01年9月に国内初のBSE感染牛が確認されて以降、牛肉を購入する際に表示を注意して見ているか質問したところ、90・1%の消費者が「よく見ている」と回答した。このうち「発生前からよく見ている」が39・5%、「以前はあまり見ていなかったが、発生以降はよく見るようになった」は50・6%に上った。（時事）

2/20 未検査米、コシヒカリと偽装表示

品質検査を受けていないコメ約1700tをコシヒカリなどと偽って首都圏で販売していたとして、農林水産省は、米穀卸売会社フクシヨクに対しJAS法に基づき原因究明や業務是正などを求める改善指示を出した。

仙台食糧事務所福島事務所によると、同社は昨年5月から8月にかけて、未検査のコメが混入した商品を「新潟県産コシヒカリ100%」などと偽って、東京都や神奈川県、埼玉県などで販売していた。（時事）

2/20 ブランド偽りミカン出荷

愛媛県の西宇和農協管内の共同選果場が、人気の高い「日の丸ミカン」の箱に同じ管内の別の産地のミカンを詰め、東京の大田市場に約140t出荷していたことが分かった。

同農協によると、「日の丸ミカン」が品薄だったため、八幡浜市内の「日の丸」の共同選果場が同市内の8協共同選果場にミカンの提供を依頼し、日の丸の箱で市場に出

荷したという。(共同)

2/26 JAS法違反で業務停止命令 熊本有機農産物認定機関

農水省は、有機農産物などの認定機関「オーガニック認証協会」が、農家や製造業者による有機JASマークの表示について認定審査する際、国の許可を受けずに申請料を徴収していたなどとして、JAS法違反で認定業務の停止命令を出したと発表した。停止期間は3月1日から5月29日までの90日間。(時事)

農薬問題

2/7 農薬の使用適正化を要請

総務省は、行政評価・監視の結果、都道府県や農協の農薬使用基準に、未登録の薬品の使用を認めるなど不適切な例があるとして、農水、厚生労働両省に指導、改善するよう通知した。

通知によると、14道府県で調べたところ、防除基準では49作物で国の基準に適合しない使用方法が174あった。防除暦では、35農協で127方法が不適合だった。(共同)

2/26 ホウレンソウ 中国産冷凍品の輸入自粛を解除

厚生労働省は、残留基準を超える農薬が相次いで検出された中国産冷凍ホウレンソウの輸入自粛を7ヶ月ぶりに解除した。現地調査で、中国側の残留防止対策が確認されたとしている。

今後、再び違反が発見された場合は、ただちに中国政府と協議し、食品衛生法に基づく輸入禁止措置の発動を含めた検討を行う方針。

テクノロジー

(毎日)

2/8 レンジの加熱だけで甘くなる焼きイモ 作物研究所が開発

電子レンジで10数分加熱するだけで、甘い焼きイモになるサツマイモの新品種「クイックスイート」を、農業技術研究機構の作物研究所が開発した。これまでのサツマイモは、70℃程度の温度で40〜50分加熱しないと、甘みが増しにくかった。同研究所の中谷・甘しょ育種研究室長は「新品種なら、手軽においしい焼きイモが楽しめる。サツマイモの需要拡大につなげたい」と話している。(毎日)

2/22 食べる花粉症治療に道 コメの遺伝子組み換え

スギ花粉症の原因となる物質の遺伝子を組み込んだコメをマウスに食べさせ、花粉症の症状を引き起こす免疫の働きを抑えることに、慈恵医大の斎藤助教と東北大学学部などが成功した。呼吸困難やしびれ、ショック状態などの副作用は見られず、食べる花粉症治療に道を開く成果。遺伝子組み換え食品を口にするこへの抵抗はありそうだが、人間でも安全性や効果が確認できれば、新たな予防、治療法として期待される。(共同)

3/3 寒さに強いラベンダー開発

トヨタ自動車は、寒さに強いラベンダー「ラビットイヤーズ」や、従来のチェリーセイジよりも大輪で鮮やかな赤い花が咲く「キルシエレッド」など4品種を開発したと発表した。ラビットイヤーズは冬でも黄緑色の葉が変色したり枯

トピックス

(毎日)

れたりせず、キルシエレッドは初夏から晩秋まで次々と鮮やかな赤い花を咲かせるという。(共同)

2/19 家庭用養鶏セットを開発

アンテナメーカーのサガ電子工業は、鶏や烏骨鶏を家庭などで飼育できる「ホーム養鶏セット」を開発した。納得できる環境やエサを、自ら選んで育てられるのが売り物。食への不安が高まる中で、究極の自衛策ともいえそうだ。

セットは、卵をかえす自動ふ卵器と、ひよこを育てる移動飼育ケージの3点で構成。価格は自動ふ卵器9万円、移動飼育器9000円、移動飼育ケージ7万円。(共同)

2/22 「農村支援すべき」が94%

共同通信社が実施したインターネットによる農業アンケートで、農村を支援すべきだと考えている人が94・3%に上った。農村は住民の高齢化などで地域の活力が衰退しており、活性化のため、都市と農村の交流などが一層求められそうだ。

政府や大都市による農村支援の必要性を聞いたところ「もっと支援すべきだ」が54・3%、「ある程度支援すべきだ」が40%を占めた。都市と農村の交流については「もっと交流する必要がある」と答えた人が83・1%を占め、「交流する必要がある」は2・7%にとどまった。(共同)

2/22 米国産牛肉が最高値見通し

米農務省当局は、03年の米国産牛肉の国内小売価格が01年4月の

1ポンド(453g)平均3・45ドル(約410円)を上回り、過去最高を更新するとの見通しを示した。価格の上昇は、生産者が引き続き進めている飼育頭数の圧縮による供給不足と、飼料の価格高騰などが要因。(共同)

2/26 米国産コメ 販売促進目指すネットワークが発足

米国産のコメの販売促進を目指す「アメリカライスショップ・ネットワーク」が都内で発足した。首都圏など日本国内の米穀店44店が加盟し、店頭でカリフォルニア産の「あきたこまち」と「コシヒカリ」を販売する。

高関税がかからないミニママアークセス枠内の輸入のため、販売価格は精米5kgで1500〜2000円と、おおむね国産米より安価となる。年間販売量は100t程度を見込んでいる。(毎日)

2/27 コシヒカリ、35・9%占め首位

02年産米の品種別収穫量 農水省がまとめた02年産米の品種別収穫量調査によると、「コシヒカリ」が全体の35・9%を占め、収穫量が最も多かった。2位が「ひとめぼれ」(9・6%)、3位は「ヒノヒカリ」(9・3%)、4位に「あきたこまち」(8・1%)が続いた。コシヒカリと並ぶ有名品種「ササニシキ」は1・2%で10位だった。(時事)

4月のイベント

(国内)

●名古屋バック2003

4月9〜12日

会場 名古屋市中小企業振興会館
内容 「21世紀の食品とその安全性、包装、エコパッケージ及び包装関連機械」をテーマに開かれる見本市
主催 日報
問い合わせ 03-3262-3462

●ファベックス2003

4月23〜25日
会場 東京ビッグサイト
内容 「美味しい、ヘルシーを納得価格で！」をテーマに開催される惣菜デリカ・弁当・外食の専門展。
主催 日本食糧新聞社
問い合わせ 03-3271-4816
公式サイト http://www.nissyoku.co.jp/fabex/

(海外)

●Anuga Foodtec

4月6〜11日
会場 MesseGelände (ドイツ・ケルン)
内容 Anugaから独立し、食品産業のハイテク技術を結集した見本市
主催 在日ドイツ商工会議所ケルン・メッセ代表部
問い合わせ 03-5276-8731
公式サイト http://www.koelne.sse.jp/FOODTEC/

●GFI 4月26〜5月4日

会場 MesseGelände (オーストリア・グラーツ)
内容 食品/建築/農業/インテリアの4つの専門展からなる総合見本市
主催 Grazer Messe International reg. Gem.b.H.,
問い合わせ +43-316-80880
公式サイト http://www.messe-gratz.at/